

柏崎刈羽原子力発電所DATA・BOX(2017年2月)

2017年2月9日

① 発電所運転状況

プラント名	現在の 運転(発電)状況	前回定期検査	過去1年間の運転状況												補足説明
			3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	
1号機 110万kW (1985.9.18運開)	停止中 第16回定期検査中 定検停止期間:2011.8.6~	第15回 2007.5.4 ~ 2010.8.4 停止期間 2007.5.4 ~ 2010.6.6 (1130日) (原子炉起動2010.5.31)	第16回定期検査による停止!												
2号機 110万kW (1990.9.28運開)	停止中 第12回定期検査中 定検停止期間:2007.2.19~	第11回 2005.9.3 ~ 2006.5.9 停止期間 2005.9.3 ~ 2005.12.25 (114日) (原子炉起動2005.12.22)	第12回定期検査による停止!												
3号機 110万kW (1993.8.11運開)	停止中 第10回定期検査中 定検停止期間:2007.9.19~	第9回 2006.5.12 ~ 2006.9.15 停止期間 2006.5.12 ~ 2006.7.27 (77日) (原子炉起動2006.7.24)	第10回定期検査による停止!												
4号機 110万kW (1994.8.11運開)	停止中 第10回定期検査中 定検停止期間:2008.2.11~	第9回 2006.4.9 ~ 2007.1.11 停止期間 2006.4.9 ~ 2006.12.14 (250日) (原子炉起動2006.12.11)	第10回定期検査による停止!												
5号機 110万kW (1990.4.10運開)	停止中 第13回定期検査中 定検停止期間:2012.1.25~	第12回 2006.11.24 ~ 2011.2.18 停止期間 2006.11.24 ~ 2010.11.25 (1463日) (原子炉起動2010.11.18)	第13回定期検査による停止!												
6号機 135.6万kW (1996.11.7運開)	停止中 第10回定期検査中 定検停止期間:2012.3.26~	第9回 2010.10.31 ~ 2011.3.9 停止期間 2010.10.31 ~ 2011.1.26 (88日) (原子炉起動2011.1.23)	第10回定期検査による停止!												
7号機 135.6万kW (1997.7.2運開)	停止中 第10回定期検査中 定検停止期間:2011.8.23~	第9回 2010.4.18 ~ 2010.7.23 停止期間 2010.4.18 ~ 2010.6.28 (72日) (原子炉起動2010.6.26)	第10回定期検査による停止!												

※プラント名欄に記載してある出力は「定格電気出力」

② 発電所設備利用率(%) (1月末現在)

1月	0.0%
2016年度累計	0.0%
運転開始後累計	50.5%

③ 発電所発電電力量(万kWh) (1月末現在)

1月	0
2016年度累計	0
運転開始後累計	87,487,412

④ ドラム缶発生量(本) (1月末現在)

当月発生本数	79
貯蔵庫累積貯蔵本数	29,649
貯蔵庫保管容量	45,000

⑤ 使用済燃料貯蔵体数(体) (2016年度第3四半期)

使用済燃料貯蔵プール貯蔵体数	13,734
使用済燃料貯蔵プール管理容量	16,915
使用済燃料貯蔵プール貯蔵容量	22,479

⑥ 従業員登録データ(人) (2月1日現在)

		東京電力	協力企業	比率
県内	柏崎市	775	2,468	51%
	刈羽村	84	213	5%
	その他	122	1,199	20%
	小計	981	3,880	76%
県外		147	1,384	24%
合計		1,128	5,264 (4,007*)	-
		6,392		100%
協力企業社数(社)		859		

※ 2月1日の協力企業構内入構者数

⑦ 来客情報(人) (1月末現在)

	1月	年度累計
地元	613	10,497
県内	165	8,728
県外	136	7,688
国外	0	197
合計	914	27,110

⑧ 今後の主なスケジュール

予定日	内容
2月16日	原子力規制委員会による現地調査
2月23日	定例の記者説明会
3月9日	次回定例所長会見
3月17日	ふれあいトークサロン(柏崎エネルギーホール)
3月18日	ふれあいトークサロン(刈羽ふれあいサロン「き・な・せ」)
3月25日	「き・な・せ」イベント(刈羽ふれあいサロン「き・な・せ」)

インターネットホームページアドレス
<http://www.tepco.co.jp/kk-np/index-j.html>

東京電力ホールディングス株式会社
 柏崎刈羽原子力発電所
 広報部
 0257-45-3131(代)

(お知らせメモ)

中央制御室床下における水平分離板に係る点検状況について

2017年2月9日

東京電力ホールディングス株式会社

柏崎刈羽原子力発電所

当所は現在、1, 2, 3, 6号機の中央制御室床下において、水平分離板の設置状況について点検を進めておりますが、2月7日時点までの点検状況は以下の通りです。

【点検状況】

号機	点検の進捗率	不適合是正枚数	点検計画・実績
1号機	61%	0枚	1月25日～3月中旬
2号機	0%	0枚	2月中旬～3月下旬
3号機	100%	0枚	点検終了
6号機	55%	0枚	1月26日～2月下旬

【特記事項】

- ・2月7日に1号機中央制御室床下の水平分離板点検を行っていた際、異なる区分を跨ぐケーブル1本を確認いたしました。(2017年2月7日お知らせ済)
その後、2月8日に跨ぎの解消を行っております。

以上

【本件に関するお問い合わせ】
東京電力ホールディングス株式会社
柏崎刈羽原子力発電所 広報部 0257-45-3131 (代表)

～ 柏崎刈羽原子力発電所 不適合審議状況(2017年1月審議分)～
(1/3ページ)

表 - 【審議/完了件数】

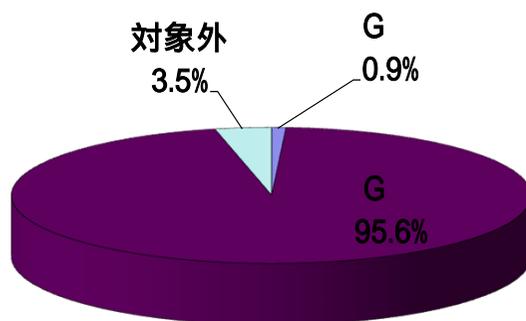
グレード	審議	完了
総計	114	180
As	-	0
A	-	0
B	-	0
C	-	3
D	-	0
G	0	1
G	1	8
G	109	168
対象外	4	-

表 - 【号機別審議件数】

運転状況 グレード	1号機	2号機	3号機	4号機	5号機	6号機	7号機	その他	総計
	定期 検査中								
総計	16	14	10	20	19	11	13	11	114
G	0	0	0	0	0	0	0	0	0
G	0	1	0	0	0	0	0	0	1
G	13	13	10	19	19	11	13	11	109
対象外	3	0	0	1	0	0	0	0	4

(運転状況は2017.1.31現在)

グラフ - 審議件数



* G グレード・対象外が99.1%を占める。

グラフ - 号機別審議件数

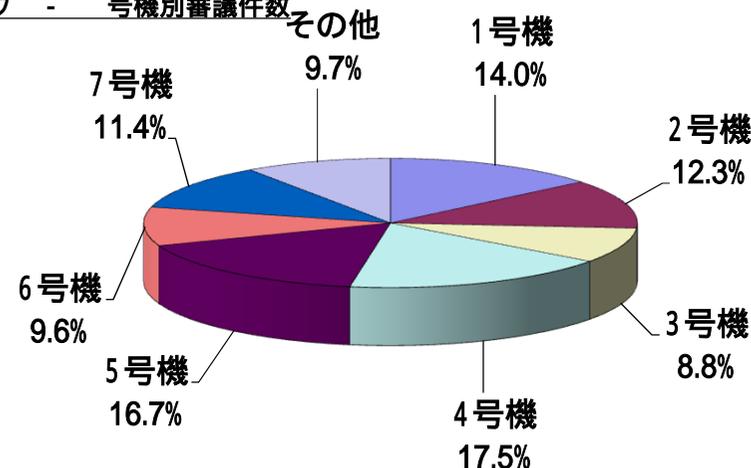


表 - 【月別審議件数(2016年2月～2017年1月)】

グレード	2016年												2017年
	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	
総計	158	180	140	119	157	149	143	154	125	136	117	114	
G	0	1	0	0	0	0	1	1	0	3	0	0	
G	6	10	6	6	2	4	2	3	1	4	1	1	
G	142	151	123	104	138	138	128	143	112	121	106	109	
対象外	10	18	11	9	17	7	12	7	12	8	10	4	

～ 柏崎刈羽原子力発電所 不適合審議状況(2017年1月審議分)～
(2/3ページ)

表 - a 【新潟県中越沖地震に係わる不適合 月別審議件数(表 - 「審議」の内数・2007年7月～2010年3月)】

グレード	2007年						2008年												2009年					
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
総計	1420	1156	159	139	106	91	57	77	40	29	26	27	37	33	19	72	20	45	12	8	7	9	6	11
As	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
A	32	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B	27	3	0	3	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
C	200	77	12	7	13	24	22	14	2	4	4	3	8	5	4	0	1	1	1	0	0	1	0	0
D	1148	1069	146	127	92	67	34	63	38	24	22	24	29	28	15	71	19	44	11	8	7	8	6	11
対象外	3	6	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

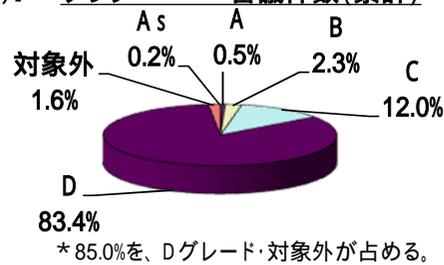
グレード	2009年						2010年			合計
	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
総計	11	6	10	6	2	9	8	7	21	3686
As	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
A	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34
B	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36
C	0	1	0	0	0	0	0	0	0	404
D	11	5	10	6	2	9	8	7	21	3190
対象外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12

～ 柏崎刈羽原子力発電所 不適合審議状況 ～ (2002年10月～2017年1月 50,906件)

表 - 【審議/完了件数(2002.10からの累計)】

グレード	審議	完了	未処理
総計	50,906	46,851	2,599
A s	74	73	1
A	169	166	3
B	808	802	6
C	4,285	4,155	130
D	29,771	29,603	168
対象外	585	-	-

グラフ - 審議件数(累計)



グラフ - 月別審議件数

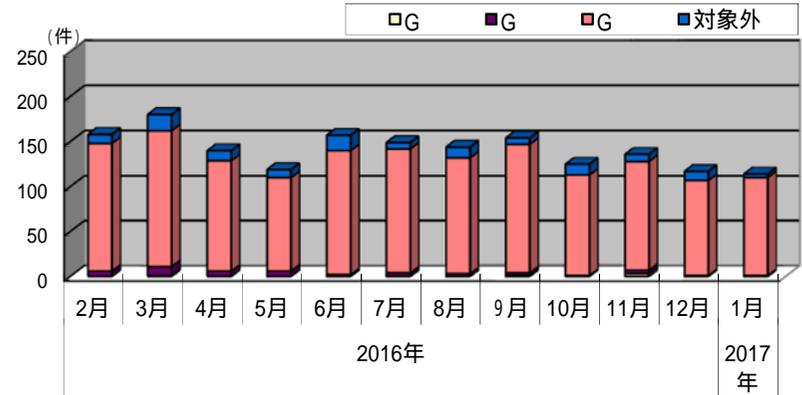
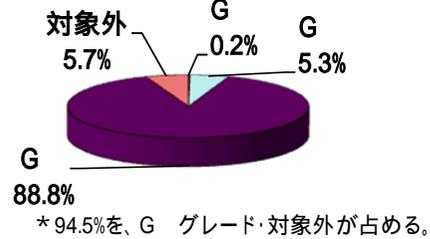


表 - 【審議/完了件数(2010.4からの累計)】

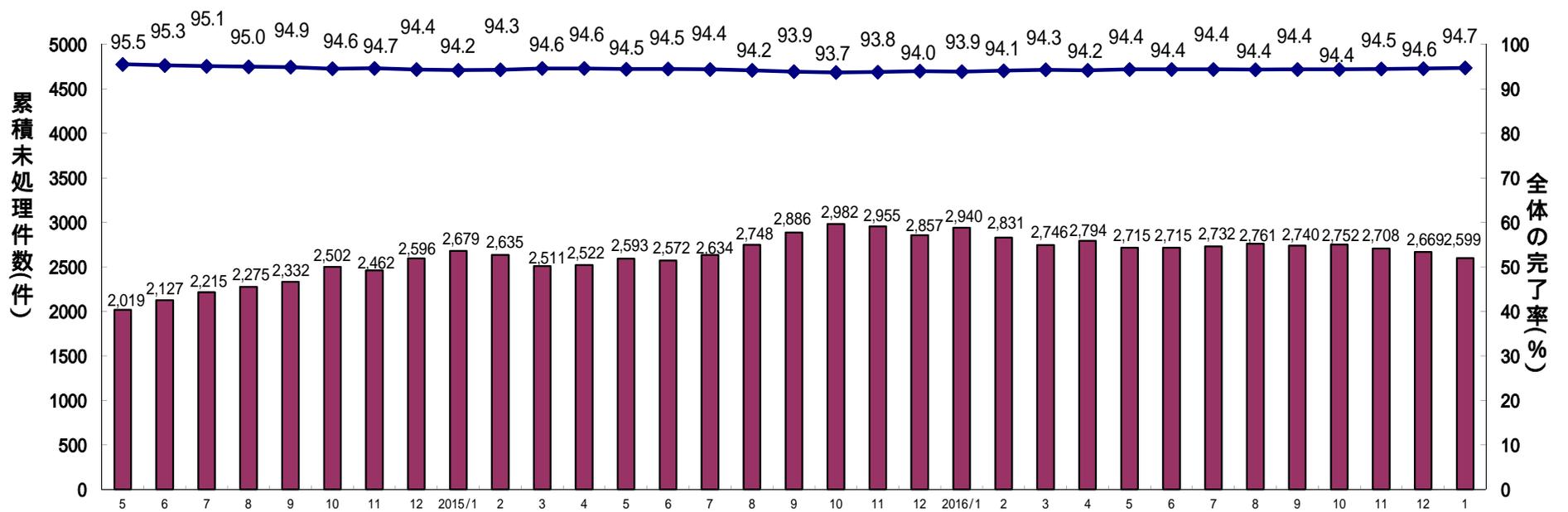
グレード	審議	完了	未処理
G	29	13	16
G	799	678	121
G	13,515	11,361	2,154
対象外	871	-	-

グラフ - 審議件数(累計)



(2017年1月31日現在)

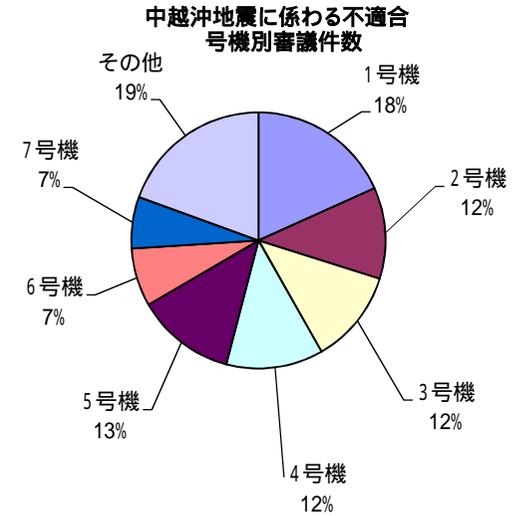
グラフ - 不適合完了率の傾向(2014年5月～2017年1月)



～ 柏崎刈羽原子力発電所 新潟県中越沖地震に係わる不適合の処理状況 ～

【新潟県中越沖地震に係わる不適合 号機別審議件数】(2017年1月31日現在)

運転状況 グレード	1号機	2号機	3号機	4号機	5号機	6号機	7号機	その他	総計
	定期 検査中								
総計	689	434	447	465	472	276	246	733	3,762
～ H22.3.31審議の不適合									
As	1	1	2	1	1	3	1	0	10
A	7	5	3	3	2	2	3	9	34
B	6	4	6	3	3	2	5	7	36
C	70	67	36	74	18	29	31	79	404
D	604	334	392	340	448	239	206	627	3,190
対象外	1	1	0	2	0	0	0	8	12
H22.4.1～H29.1.31審議の不適合									
G	0	0	0	0	0	0	0	0	0
G	0	1	0	0	0	0	0	0	1
G	0	21	8	42	0	0	0	3	74
対象外	0	0	0	0	0	1	0	0	1

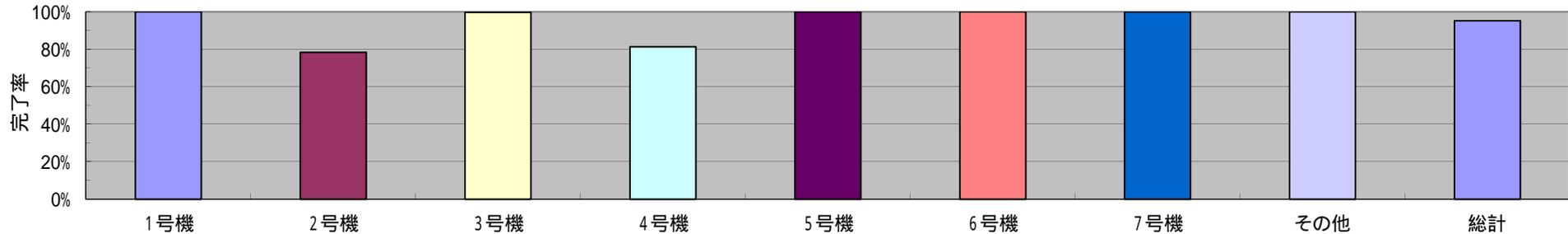


【新潟県中越沖地震に係わる不適合 号機別処理状況】(2017年1月31日現在)

グレード	1号機	2号機	3号機	4号機	5号機	6号機	7号機	その他	総計
完了率	100.0%	78.3%	99.8%	81.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	95.2%
総計	689	340	446	378	472	276	246	733	3,580
～ H22.3.31審議の不適合									
As	1	1	2	1	1	3	1	0	10
A	7	5	3	2	2	2	3	9	33
B	6	4	6	2	3	2	5	7	35
C	70	31	36	40	18	29	31	79	334
D	604	290	391	300	448	239	206	627	3,105
対象外	1	1	0	2	0	0	0	8	12
H22.4.1～H29.1.31審議の不適合									
G	0	0	0	0	0	0	0	0	0
G	0	1	0	0	0	0	0	0	1
G	0	7	8	31	0	0	0	3	49
対象外	0	0	0	0	0	1	0	0	1

不適合処理を完了したものの又はプラントの運転に影響が無いことの評価を完了したものの。

中越沖地震に係わる不適合 号機別処理状況



柏崎刈羽原子力発電所における 安全対策の取り組み状況について

2017年2月9日

東京電力ホールディングス株式会社

柏崎刈羽原子力発電所

TEPCO

柏崎刈羽原子力発電所6、7号機における規制基準への主な対応状況

2017年2月8日現在

規制基準の要求機能と当所6、7号機において講じている安全対策の例	対応状況	
	6号機	7号機
I. 耐震・対津波機能（強化される主な事項のみ記載）		
1. 基準津波により安全性が損なわれないこと		
（1）基準津波の評価	完了	
（2）防潮堤の設置	完了	
（3）原子炉建屋の水密扉化	完了	完了
（4）津波監視カメラの設置	完了	
（5）貯留堰の設置	完了	完了
（6）重要機器室における常設排水ポンプの設置	完了	完了
2. 津波防護施設等は高い耐震性を有すること		
（1）津波防護施設（防潮堤）等の耐震性確保	完了	完了
3. 基準地震動策定のため地下構造を三次元的に把握すること		
（1）地震の揺れに関する3次元シミュレーションによる地下構造確認	完了	完了
4. 安全上重要な建物等は活断層の露頭がない地盤に設置		
（1）敷地内断層の約20万年前以降の活動状況調査	完了	完了
II. 重大事故を起こさないために設計で担保すべき機能（設計基準） （強化される主な事項のみ記載）		
1. 火山、竜巻、外部火災等の自然現象により安全性が損なわれないこと		
（1）各種自然現象に対する安全上重要な施設の機能の健全性評価	完了	完了
（2）防火帯の設置	完了	
2. 内部溢水により安全性が損なわれないこと		
（1）溢水防止対策（水密扉化、壁貫通部の止水処置等）	工事中	工事中

 : 検討中、設計中
 : 工事中
 : 完了

柏崎刈羽原子力発電所6、7号機における規制基準への主な対応状況

2017年2月8日現在

規制基準の要求機能と当所6、7号機において講じている安全対策の例	対応状況	
	6号機	7号機
3. 内部火災により安全性が損なわれないこと		
(1) 耐火障壁の設置等	工事中	工事中
4. 安全上重要な機能の信頼性確保		
(1) 重要な系統(非常用炉心冷却系等)は、配管も含めて系統単位で多重化もしくは多様化	既存設備 ^{※1} にて対応	既存設備 ^{※1} にて対応
5. 電気系統の信頼性確保		
(1) 発電所外部の電源系統多重化(3ルート5回線)	既存設備 ^{※1} にて対応	既存設備 ^{※1} にて対応
(2) 非常用ディーゼル発電機(D/G)燃料タンクの耐震性の確認	完了	完了
Ⅲ. 重大事故等に対処するために必要な機能		
1. 原子炉停止		
(1) 代替制御棒挿入機能	既存設備 ^{※1} にて対応	既存設備 ^{※1} にて対応
(2) 代替冷却材再循環ポンプ・トリップ機能	既存設備 ^{※1} にて対応	既存設備 ^{※1} にて対応
(3) ほう酸水注入系の設置	既存設備 ^{※1} にて対応	既存設備 ^{※1} にて対応
2. 原子炉冷却材圧力バウンダリの減圧		
(1) 自動減圧機能の追加	完了	完了
(2) 予備ポンペ・バッテリーの配備	完了	完了
3. 原子炉注水		
3.1 原子炉高圧時の原子炉注水		
(1) 高圧代替注水系の設置	工事中	工事中
3.2 原子炉低圧時の原子炉注水		
(1) 復水補給水系による代替原子炉注水手段の整備	完了	完了
(2) 原子炉建屋外部における接続口設置による原子炉注水手段の整備	完了	完了
(3) 消防車の高台配備	完了	

※1 福島第一原子力事故以前より設置している設備

柏崎刈羽原子力発電所6、7号機における規制基準への主な対応状況

2017年2月8日現在

規制基準の要求機能と当所6、7号機において講じている安全対策の例	対応状況	
	6号機	7号機
4. 重大事故防止対策のための最終ヒートシンク確保		
(1) 代替水中ポンプおよび代替海水熱交換器設備の配備	完了	完了
(2) 耐圧強化バントによる大気への除熱手段を整備	既存設備 ^{※1} にて対応	既存設備 ^{※1} にて対応
5. 格納容器内雰囲気冷却・減圧・放射性物質低減		
(1) 復水補給水系による格納容器スプレイ手段の整備	既存設備 ^{※1} にて対応	既存設備 ^{※1} にて対応
6. 格納容器の過圧破損防止		
(1) フィルタバント設備(地上式)の設置	性能試験終了 ^{※2}	性能試験終了 ^{※2}
(2) 代替循環冷却系の設置	工事中	工事中
7. 格納容器下部に落下した溶融炉心の冷却(ペDESTAL注水)		
(1) 復水補給水系によるペDESTAL(格納容器下部)注水手段の整備	既存設備 ^{※1} にて対応	既存設備 ^{※1} にて対応
(2) 原子炉建屋外部における接続口設置によるペDESTAL(格納容器下部)注水手段の整備	完了	完了
8. 格納容器内の水素爆発防止		
(1) 原子炉格納容器への窒素封入(不活性化)	既存設備 ^{※1} にて対応	既存設備 ^{※1} にて対応
9. 原子炉建屋等の水素爆発防止		
(1) 原子炉建屋水素処理設備の設置	完了	完了
(2) 原子炉建屋水素検知器の設置	完了	完了
10. 使用済燃料プールの冷却、遮へい、未臨界確保		
(1) 使用済燃料プールに対する外部における接続口およびスプレイ設備の設置	完了	完了

※1 福島第一原子力事故以前より設置している設備

※2 周辺工事は継続実施

柏崎刈羽原子力発電所6、7号機における規制基準への主な対応状況

2017年2月8日現在

規制基準の要求機能と当所6、7号機において講じている安全対策の例	対応状況	
	6号機	7号機
11. 水源の確保		
(1) 貯水池の設置(淡水タンク・防火水槽への送水配管含む)	完了	完了
(2) 重大事故時の海水利用(注水等)手段の整備	完了	完了
12. 電気供給		
(1) 空冷式ガスタービン車・電源車の配備	完了	
(2) 緊急用電源盤の設置	完了	
(3) 緊急用電源盤から原子炉建屋への常設ケーブルの布設	完了	完了
(4) 代替直流電源(バッテリー等)の配備	工事中	完了
13. 中央制御室の環境改善		
(1) シビアアクシデント時の運転員被ばく線量低減対策(中央制御室ギャラリー室内の遮へい等)	工事中	
14. 緊急時対策所		
(1) 免震重要棟の設置	完了	
(2) シビアアクシデント時の所員被ばく線量低減対策(免震重要棟内の遮へい等)	工事中	
(3) 5号機における緊急時対策所の整備	検討中	
15. モニタリング		
(1) 常設モニタリングポスト専用電源の設置	完了	
(2) モニタリングカーの配備	完了	
16. 通信連絡		
(1) 通信設備の増強(衛星電話の設置等)	完了	
17. 敷地外への放射性物質の拡散抑制		
(1) 原子炉建屋外部からの注水設備(大容量放水設備等)の配備	完了	

柏崎刈羽原子力発電所における安全対策の実施状況

2017年2月8日現在

項目	1号機	2号機	3号機	4号機	5号機	6号機	7号機
I. 防潮堤（堤防）の設置	完了 ^{※4}				完了		
II. 建屋等への浸水防止							
(1) 防潮壁の設置（防潮板含む）	完了	完了	完了	完了	海拔15m以下に開口部なし		
(2) 原子炉建屋等の水密扉化	完了	検討中	工事中	検討中	完了	完了	完了
(3) 熱交換器建屋の浸水防止対策	完了	完了	完了	完了	完了	-	
(4) 開閉所防潮壁の設置 ^{※3}	完了						
(5) 浸水防止対策の信頼性向上（内部溢水対策等）	工事中	検討中	工事中	検討中	工事中	工事中	工事中
III. 除熱・冷却機能の更なる強化等							
(1) 水源の設置	完了						
(2) 貯留堰の設置	完了	検討中	検討中	検討中	完了	完了	完了
(3) 空冷式ガスタービン発電機等の追加配備	完了						
(4) -1 緊急用の高圧配電盤の設置	完了						
(4) -2 原子炉建屋への常設ケーブルの布設	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了
(5) 代替水中ポンプおよび代替海水熱交換器設備の配備	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了
(6) 高圧代替注水系の設置	工事中	検討中	検討中	検討中	工事中	工事中	工事中
(7) フィルタベント設備（地上式）の設置	工事中	検討中	検討中	検討中	工事中	性能試験終了 ^{※2}	性能試験終了 ^{※2}
(8) 原子炉建屋トップベント設備の設置	完了	完了	完了	完了	完了	完了	完了
(9) 原子炉建屋水素処理設備の設置	完了	検討中	検討中	検討中	完了	完了	完了
(10) 格納容器頂部水張り設備の設置	完了	検討中	検討中	検討中	完了	完了	完了
(11) 環境モニタリング設備等の増強・モニタリングカーの増設	完了						
(12) 高台への緊急時資機材倉庫の設置 ^{※3}	完了						
(13) 大湊側純水タンクの耐震強化	-				完了		
(14) 大容量放水設備等の配備	完了						
(15) アクセス道路の多重化・道路の補強	完了						
(16) 免震重要棟の環境改善	工事中						
(17) 送電鉄塔基礎の補強 ^{※3} ・開閉所設備等の耐震強化工事 ^{※3}	完了						
(18) 津波監視カメラの設置	工事中				完了		
(19) コリウムシールドの設置 ^{※3}	検討中	検討中	検討中	検討中	検討中	工事中	完了

※2 周辺工事は継続実施

※3 当社において自主的な取り組みとして実施している対策

※4 追加の対応について検討中

今後も、より一層の信頼性向上のための安全対策を実施してまいります。

<参考> 柏崎刈羽原子力発電所6、7号機における主な自主的取り組みの対応状況

2017年2月8日現在

	対応状況	
	6号機	7号機
Ⅲ. 重大事故等に対処するために必要な機能		
9. 原子炉建屋等の水素爆発防止		
(2) 格納容器頂部水張り設備の設置	完了	完了
(4) 原子炉建屋トップベント設備の設置	完了	完了
10. 使用済燃料プールの冷却、遮へい、未臨界確保		
(1) 復水補給水系による代替使用済燃料プール注水手段の整備	既存設備 ^{※1} にて対応	既存設備 ^{※1} にて対応
11. 水源の確保		
(2) 大湊側純水タンクの耐震強化	完了	

※1 福島第一原子力事故以前より設置している設備

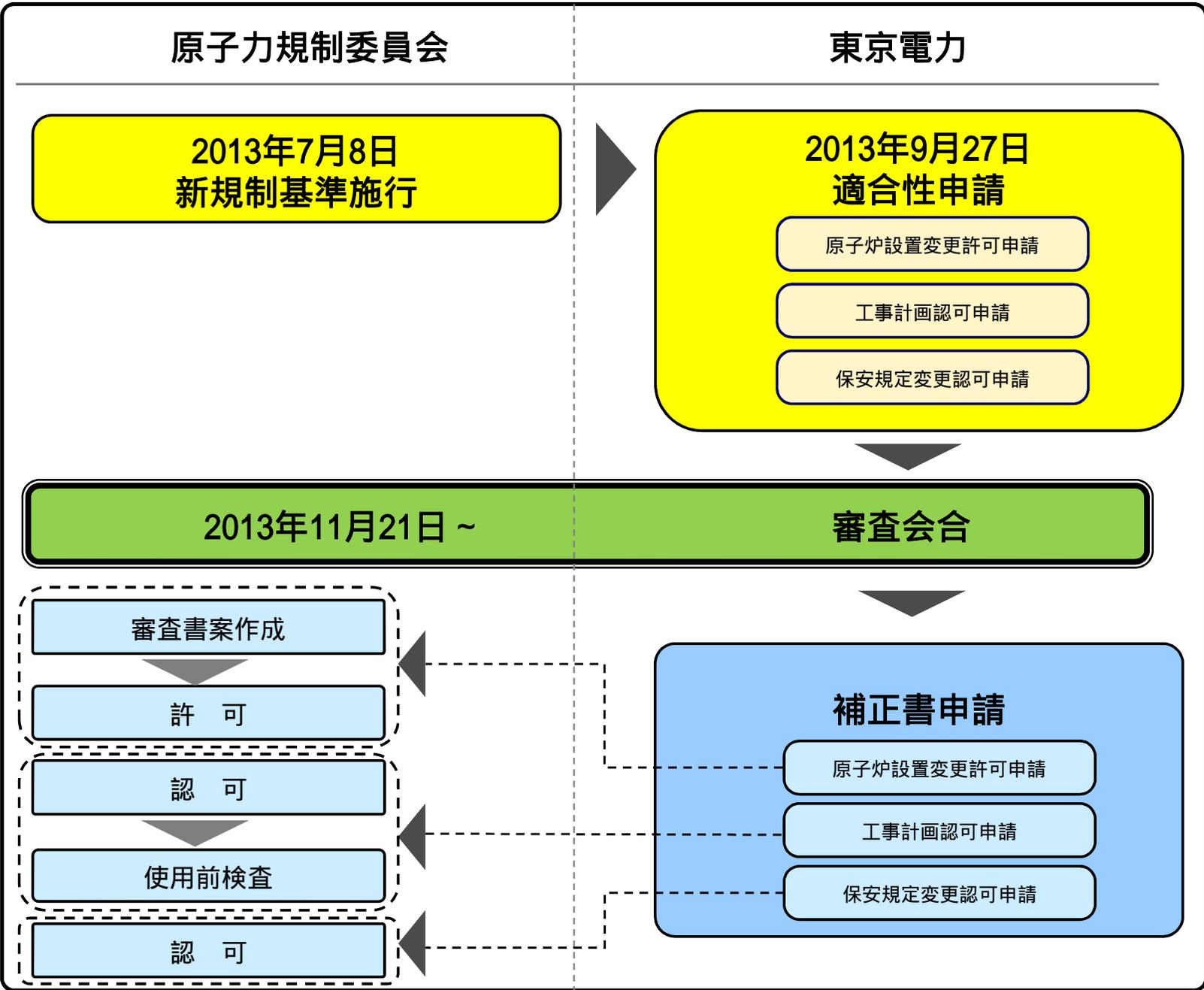
柏崎刈羽原子力発電所 6、7号機の 新規制基準への適合性審査の状況について

2017年2月9日

東京電力ホールディングス株式会社

柏崎刈羽原子力発電所

審査の流れについて



地震・津波等の審査状況

2017年2月8日現在

主要な審査項目		審査状況
地質・地盤	敷地周辺の断層の活動性	済
	敷地内の断層の活動性	済
	地盤・斜面の安定性	済
地震動	地震動	済
津波	津波	済
火山	対象火山の抽出	済

地震・津波等の審査状況

- 当社に関わる審査会合は、2017年2月8日までに32回行われています。
- 原子力規制委員会による追加地質調査に関わる現地調査が行われています。
 - ・ 1回目：2014年 2月17日、18日
 - ・ 2回目：2014年 10月30日、31日
 - ・ 3回目：2015年 3月17日
- 2016年9月30日にまとめ資料について、説明させていただいております。
- 至近の状況としては、2016年12月26日に、5号緊対設置に伴う資料変更箇所（敷地内断層等）について、説明させていただいております。

プラントの審査状況

2017年2月8日現在

主要な審査項目		審査状況 ¹
設計基準 対象施設	外部火災（影響評価・対策）	済
	火山（対策）	済
	竜巻（影響評価・対策）	済
	内部溢水対策	済
	火災防護対策	済
	耐震設計	実施中
	耐津波設計	実施中
重大事故 等対処施設	確率論的リスク評価（シーケンス選定含）	済
	有効性評価	済
	解析コード	済
	制御室（緊急時対策所含）	実施中 ²
	フィルタベント	済

1 審査状況 「済」：審査会合後に指摘事項に対する回答を行い、まとめ資料を作成中のもの

「実施中」：審査が継続的に実施されているもの

2 剛構造の緊急時対策所を5号機原子炉建屋内に設置することについて審査中

プラントの審査状況

- 当社に関わる審査会合は、2017年2月8日までに99回行われています。
- 原子力規制委員会によるプラントに関わる現地調査が行われています。
 - ・ 1回目：2014年 12月12日
 - ・ 2回目：2016年 7月22日
- 至近の状況としては、2017年2月7日に、大規模損壊発生時の体制の整備等について説明させていただいております。

5号機緊急時対策所および 関連設備について

2017年2月9日
東京電力ホールディングス株式会社
柏崎刈羽原子力発電所

TEPCO

発電所で想定する地震動に幅広く対応できるように、免震構造とは異なる剛構造の緊急時対策所とし、耐震設計、建物構造に多様性を持たせるとともに位置的にも分散設置する。

設置場所：5号機原子炉建屋 3階計算機室

床面積：約140m²

収容人数：約90名（6号機および7号機の2プラント運転時における緊急時対策所本部要員および現場要員）

設置設備：プラント安全パラメータ表示システム

可搬型モニタリングポスト

衛星電話・無線連絡設備

統合原子力防災ネットワークを用いた通信連絡設備

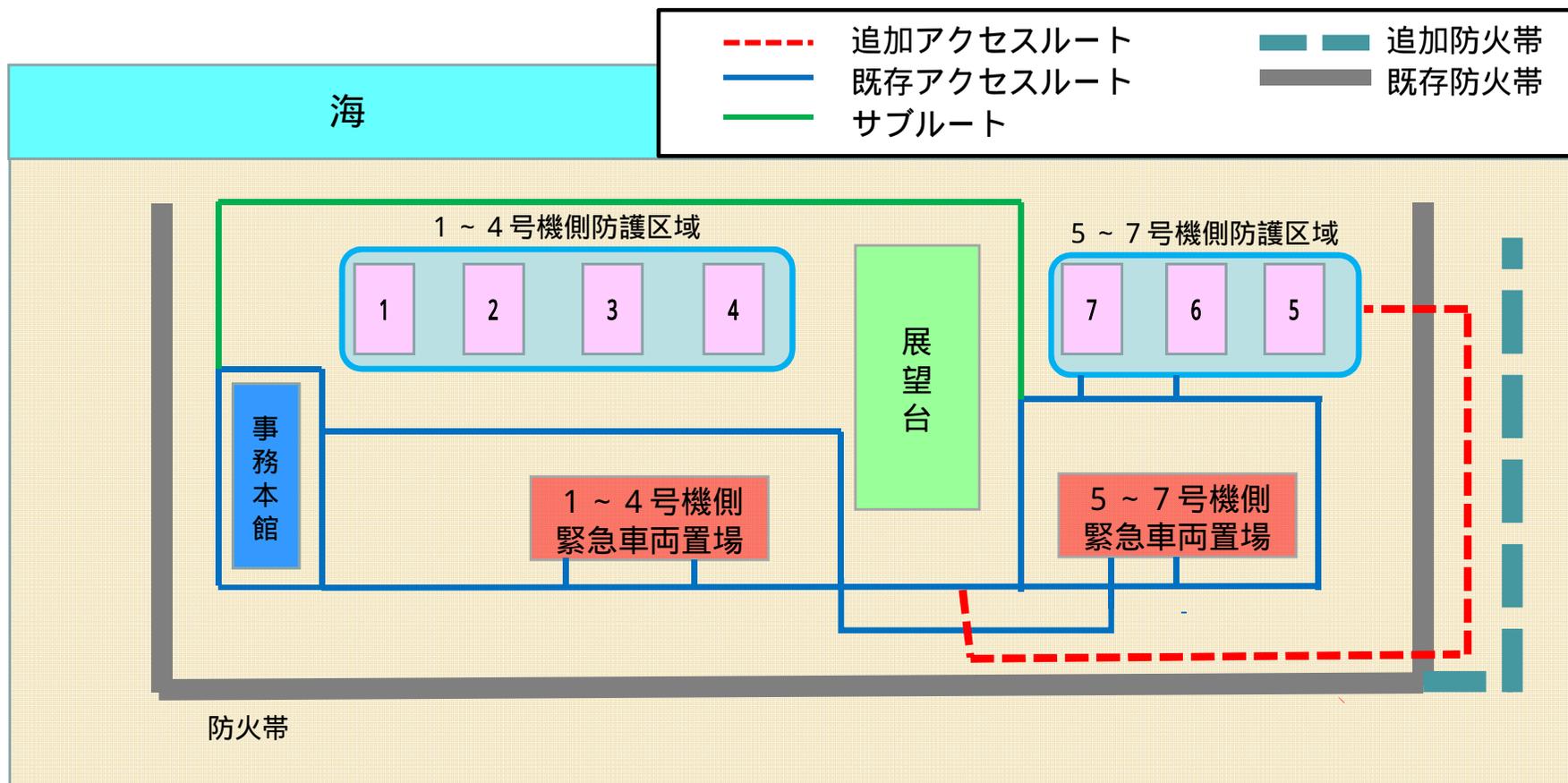
データ伝送設備

居住性設計：7日間で100mSv以下

設備故障等の不測事態への対応、給油作業等の現場要員の待機場所を設置する。

重大事故が発生した際に、対策要員および緊急車両が現場に出向できるよう、地震、津波その他の自然現象を想定し、迂回路も考慮してアクセスルートの多重化を進めている。

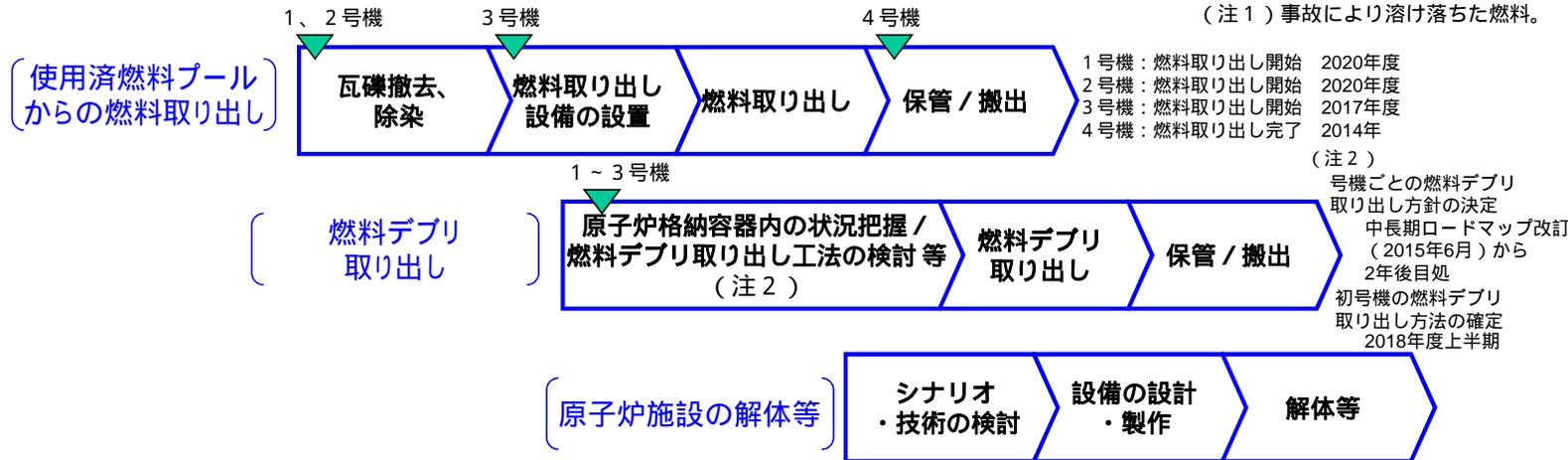
5号機緊急時対策所へのアクセスルートは現在2方向からアクセスできるが、徒歩による別経路での移動も可能となるよう追加アクセスルートを整備
追加アクセスルートを森林火災から防護するため、追加防火帯を整備



主なアクセスルート・防火帯のイメージ図

「廃炉」の主な作業項目と作業ステップ

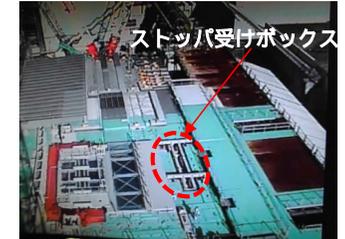
～ 4号機使用済燃料プールからの燃料取り出しが完了しました。1～3号機の燃料取り出し、燃料デブリ(注1)取り出しの開始に向け順次作業を進めています～



プールからの燃料取り出しに向けて

3号機の使用済燃料プールからの燃料取り出しに向け、燃料取り出し用カバーの設置作業を進めています。

原子炉建屋オペレーティングフロアの線量低減対策として、2016年6月に除染作業、2016年12月に遮へい体設置が完了しました。2017年1月より、燃料取り出し用カバーの設置作業を開始しました。



3号機燃料取り出し用カバー設置状況
東側ストップ受けボックス設置(2017/1/17)

「汚染水対策」の3つの基本方針と主な作業項目

～ 汚染水対策は、下記の3つの基本方針に基づき進めています～

方針1. 汚染源を取り除く

多核種除去設備等による汚染水浄化
トレンチ(注3)内の汚染水除去
(注3) 配管などが入った地下トンネル。

方針2. 汚染源に水を近づけない

地下水バイパスによる地下水汲み上げ
建屋近傍の井戸での地下水汲み上げ
凍土方式の陸側遮水壁の設置
雨水の土壌浸透を抑える敷地舗装

方針3. 汚染水を漏らさない

水ガラスによる地盤改良
海側遮水壁の設置
タンクの増設(溶接型へのリプレイス等)



多核種除去設備(ALPS)等

- タンク内の汚染水から放射性物質を除去しリスクを低減させます。
- 多核種除去設備に加え、東京電力による多核種除去設備の増設(2014年9月から処理開始)、国の補助事業としての高性能多核種除去設備の設置(2014年10月から処理開始)により、汚染水(RO濃縮塩水)の処理を2015年5月に完了しました。
- 多核種除去設備以外で処理したストロンチウム処理水について、多核種除去設備での処理を進めています。



(高性能多核種除去設備)

凍土方式の陸側遮水壁

- 建屋を陸側遮水壁で囲み、建屋への地下水流入を抑制します。
- 2016年3月より海側及び山側の一部、2016年6月より山側の95%の範囲の凍結を開始しました。
- 2016年10月、海側において海水配管トレンチ下の非凍結箇所や地下水位以上などの範囲を除き、凍結必要範囲が全て0以下となりました。



凍結管バルブ
(開閉操作の様子)

海側遮水壁

- 1～4号機海側に遮水壁を設置し、汚染された地下水の海洋流出を防ぎます。
- 遮水壁を構成する鋼管矢板の打設が2015年9月に、鋼管矢板の継手処理が2015年10月に完了し、海側遮水壁の開合作業が終わりました。



(海側遮水壁)

取り組みの状況

1~3号機の原子炉・格納容器の温度は、この1か月、約15~約25¹で推移しています。また、原子炉建屋からの放射性物質の放出量等については有意な変動がなく²、総合的に冷温停止状態を維持していると判断しています。

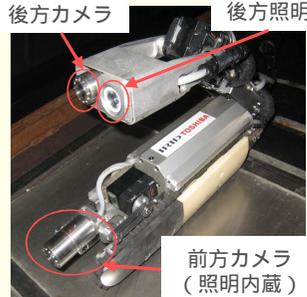
1 号機や温度計の位置により多少異なります。
 2 1~4号機原子炉建屋からの放出による被ばく線量への影響は、2016年12月の評価では敷地境界で年間0.00027mSv/ト未満です。なお、自然放射線による被ばく線量は年間約2.1mSv/ト(日本平均)です。

2号機原子炉格納容器内部調査に向けて

2号機原子炉格納容器ペDESTAL 内のデブリ落下状況を調査するため、原子炉格納容器の内部調査を計画しています。内部調査に先立ち、ロボットを通す格納容器貫通部の穴あけ作業を2016/12/23、24に実施しました。

1/26に格納容器貫通部からカメラを挿入し、自走式調査装置が走行するCRD交換用レールの状況を確認しました。今後、ペDESTAL内の事前確認を実施し、2月に自走式調査装置を用い、ペDESTAL内の調査を行います。

原子炉圧力容器を支える基礎



<自走式調査装置>

3号機燃料取り出し用カバー等設置開始

3号機燃料取り出しに向けて、燃料取り出し用カバーの部材であるストップの設置作業を1/17より開始しました。

燃料取り出し用カバー等の設置にあたっては、被ばく低減の観点から、オペレーティングフロアでの有人作業時間の短縮、線量低減を図っており、今後も被ばく低減に向けて取り組んでまいります。

【時間短縮】

- ・ 予め発電所構外で調整・組立
- ・ 発電所構外での設置訓練実施

【線量低減】

- ・ 有人作業時の仮設遮へい体設置

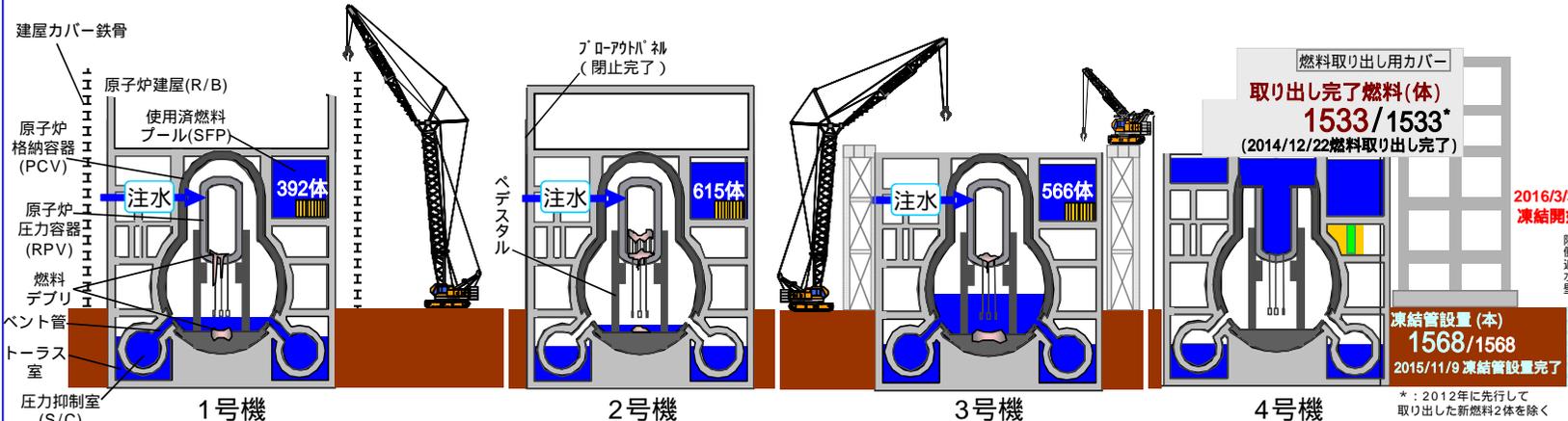
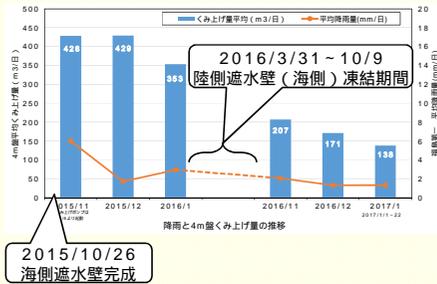


<ストップ設置作業の状況>
 : 燃料取り出し用カバーを原子炉建屋に水平支持させる突起状部材

陸側遮水壁の状況

陸側遮水壁(山側)は、段階的に凍結を進めており、12/3に未凍結7箇所のうち2箇所の閉合を開始し、あわせて凍結を促進する工法を進め、0以下の範囲が増えてきています。

陸側遮水壁(海側)の効果を評価するために、地下水位、4m盤の地下水汲み上げ量を確認しています。地下水位は更に低下し、4m盤の地下水汲み上げ量は過去最少(1/19:107m³/日)を更新しています。



原子炉注水量の低減

2016/12/14より1号機原子炉への注水量を毎時4.5m³から毎時4.0m³に、2017/1/5に毎時4.0m³から毎時3.5m³に、1/24に毎時3.5m³から毎時3.0m³に低減しました。いずれにおいても原子炉圧力容器底部等の温度は想定範囲内で推移しています。

今回の結果を踏まえて最適な注水量等を検討します。また、注水量低減の取り組みにより、水処理装置に余裕が生まれるため、建屋内汚染水の処理に活用していきます。

また、2月以降、3号機、2号機の順に原子炉注水量を低減します。

港湾内海底土被覆完了

港湾内海底土について、放射性物質の拡散防止のために実施した1層目の被覆(2015年4月完了)に加え、耐久性向上のための2層目の被覆工事が2016/12/26に完了しました。



地下水ドレン 前処理装置運用開始

海側遮水壁近傍の地下水を汲み上げた地下水ドレンは、塩分濃度等が高いため一部をタービン建屋へ移送し汚染水の増加要因となっています。

タービン建屋への移送量を減らすため、前処理装置(淡水化装置)を設置しています。

準備が整い次第、前処理装置の運用を開始する予定です。

主な取り組み 構内配置図



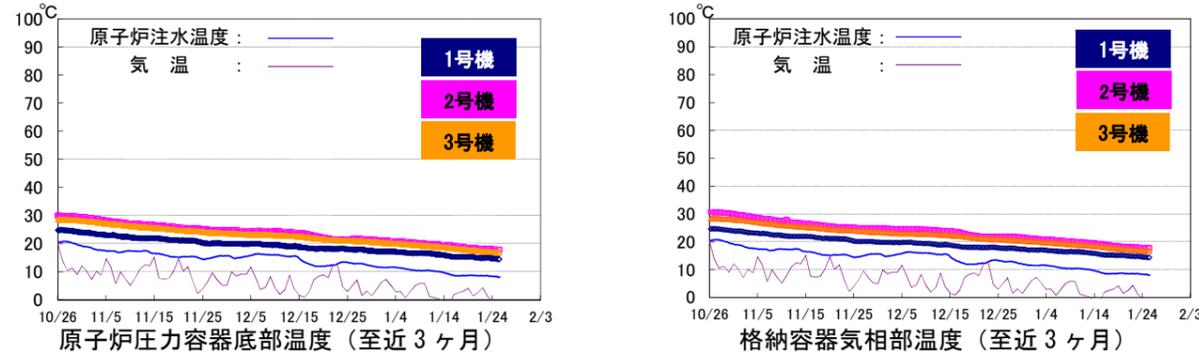
提供: 日本スペースイメージング(株)、(C)DigitalGlobe

モニタリングポスト (MP-1 ~ MP-8) のデータ
 敷地境界周辺の空間線量率を測定しているモニタリングポスト(MP)のデータ(10分値)は0.503 μ Sv/h ~ 2.114 μ Sv/h (2016/12/21 ~ 2017/1/24)。
 MP-2 ~ MP-8については、空間線量率の変動をより正確に測定することを目的に、2012/2/10 ~ 4/18に、環境改善(森林の伐採、表土の除去、遮へい壁の設置)の工事を実施しました。
 環境改善工事により、発電所敷地内と比較して、MP周辺の空間線量率だけが低くなっています。
 MP-6については、さらなる森林伐採等を実施した結果、遮へい壁外側の空間線量率が大幅に低減したことから、2013/7/10 ~ 7/11にかけて遮へい壁を撤去しました。

I. 原子炉の状態の確認

1. 原子炉内の温度

注水冷却を継続することにより、原子炉圧力容器底部温度、格納容器気相部温度は、号機や温度計の位置によって異なるものの、至近1ヶ月において、約15～25度で推移。

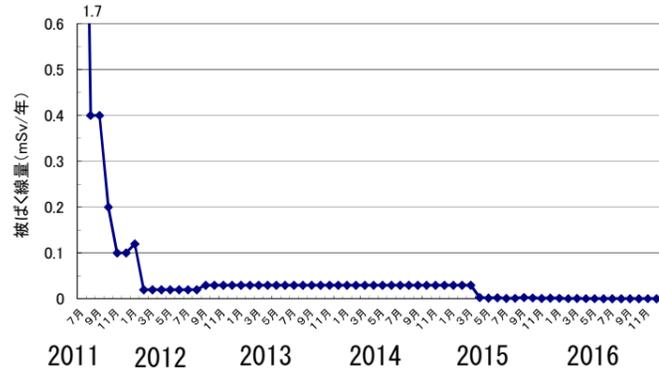


※トレンドグラフは複数点計測している温度データの内、一部のデータを例示

2. 原子炉建屋からの放射性物質の放出

2016年12月において、1～4号機原子炉建屋から新たに放出される放射性物質による、敷地境界における空气中放射性物質濃度は、Cs-134 約 3.5×10^{-12} ベクレル/cm³ 及び Cs-137 約 6.8×10^{-12} ベクレル/cm³ と評価。放出された放射性物質による敷地境界上の被ばく線量は 0.00027mSv/年未満と評価。

1～4号機原子炉建屋からの放射性物質（セシウム）による敷地境界における年間被ばく線量評価



(参考)

※周辺監視区域外の空气中の濃度限度：

[Cs-134]： 2×10^{-5} ベクレル/cm³、

[Cs-137]： 3×10^{-5} ベクレル/cm³

※1F敷地境界周辺のダスト濃度「実測値」：

[Cs-134]：ND（検出限界値：約 1×10^{-7} ベクレル/cm³）、

[Cs-137]：ND（検出限界値：約 2×10^{-7} ベクレル/cm³）

※モニタリングポスト（MP1～MP8）のデータ

敷地境界周辺の空間線量率を測定しているモニタリングポスト（MP）のデータ（10分値）は 0.503 μ Sv/h～2.114 μ Sv/h（2016/12/21～2017/1/24）

MP2～MP8 空間線量率の変動をより正確に測定することを目的に、環境改善（周辺の樹木伐採、表土の除去、遮へい設置）を実施済み。

(注) 線量評価については、施設運営計画と月例報告とで異なる計算式及び係数を使用していたことから、2012年9月に評価方法の統一を図っている。

4号機については、使用済燃料プールからの燃料取り出し作業を踏まえ、2013年11月より評価対象に追加している。

2015年度より連続ダストモニタの値を考慮した評価手法に変更し、公表を翌月としている。

3. その他の指標

格納容器内圧力や、臨界監視のための格納容器放射性物質濃度（Xe-135）等のパラメータについても有意な変動はなく、冷却状態の異常や臨界等の兆候は確認されていない。

以上より、総合的に冷温停止状態を維持しており原子炉が安定状態にあることが確認されている。

II. 分野別の進捗状況

1. 汚染水対策

～地下水流入により増え続ける滞留水について、流入を抑制するための抜本的な対策を図るとともに、水処理施設の除染能力の向上、汚染水管理のための施設を整備～

➤ 地下水バイパスの運用状況

- 2014/4/9より12本ある地下水バイパス揚水井の各ポンプを順次稼働し、地下水の汲み上げを開始。2014/5/21より内閣府廃炉・汚染水対策現地事務所職員の立ち会いの下、排水を開始。2017/1/24までに251,909m³を排水。汲み上げた地下水は、一時貯留タンクに貯留し、水質が運用目標未満であることを東京電力及び第三者機関で確認した上で排水。
- ポンプの運転状況を確認しつつ、適宜点検・清掃を実施中。

➤ サブドレン他水処理施設の状況について

- 建屋へ流れ込む地下水の量を減らすため、建屋周辺の井戸（サブドレン）からの地下水の汲み上げを2015/9/3より開始。汲み上げた地下水は専用の設備により浄化し、2015/9/14より排水を開始。2017/1/24までに265,031m³を排水。浄化した地下水は水質が運用目標未満であることを東京電力及び第三者機関にて確認した上で排水。
- 海側遮水壁の閉合以降、地下水ドレンポンド水位が上昇したことから2015/11/5より汲み上げを開始。2017/1/24までに約116,200m³を汲み上げ。地下水ドレンからタービン建屋へ約30m³/日移送（2016/12/15～2017/1/18の平均）。
- サブドレンによる地下水流入量抑制効果の評価は、当面、「サブドレン水位」の相関と「サブドレン水位と建屋水水位の水位差」の相関の双方から評価していくこととする。
- ただし、サブドレン稼働後、降雨の影響についてもデータが多くないことから、今後データを蓄積しつつ、建屋流入量の評価は適宜見直しを行っていくこととする。
- サブドレン稼働によりサブドレン水位がTP3.5mを下回ると、あるいは建屋との水位差が2mを下回ると、建屋への流入量は200m³/日を下回るようになってきている。
- サブドレン他強化対策として、サブドレンピット～No.5中継タンク間で共有されている配管をピット毎に単独化し運用開始（1/20～）。また、地下水ドレンをタービン建屋へ移送する量を低減する目的で前処理装置を設置し、準備が整い次第運用開始予定。

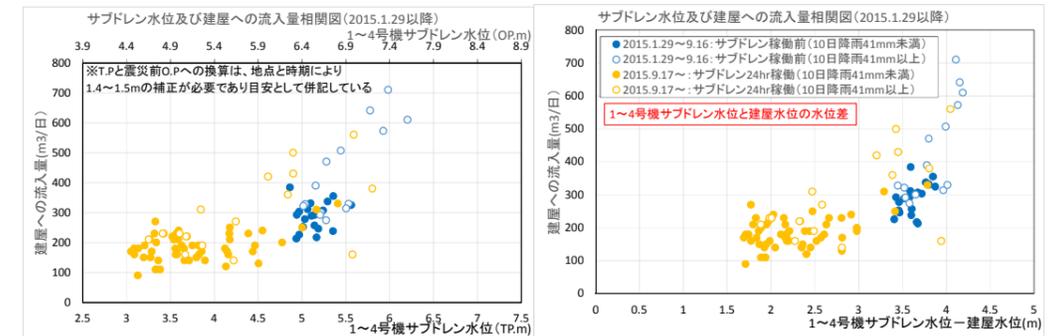


図1：サブドレン稼働後における建屋流入量評価

2017/1/19 現在

➤ 陸側遮水壁の造成状況

- 陸側遮水壁（山側）は、段階的に凍結を進めており、12/3に未凍結箇所7箇所のうち2箇所の閉合を開始し、あわせて凍結を促進するための工法を進め、0°C以下の範囲が増えてきている。
- 陸側遮水壁（海側）の効果の評価するために、地下水位、4m盤の地下水汲み上げ量を確認している。地下水位は更に低下し、4m盤の地下水汲み上げ量は過去最少（1/19:107m³/日）を更新している。

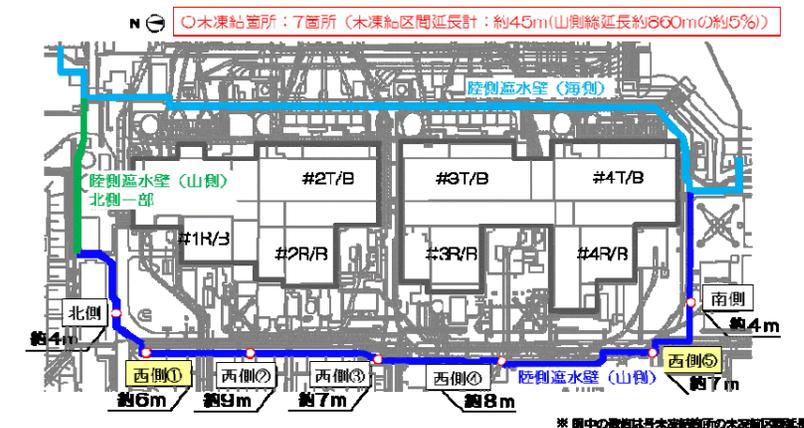


図2：陸側遮水壁（山側）の一部閉合箇所

➤ 多核種除去設備の運用状況

- 多核種除去設備（既設・増設・高性能）は放射性物質を含む水を用いたホット試験を実施中（既設 A 系：2013/3/30～、既設 B 系：2013/6/13～、既設 C 系：2013/9/27～、増設 A 系：2014/9/17～、増設 B 系：2014/9/27～、増設 C 系：2014/10/9～、高性能：2014/10/18～）。
- これまでに既設多核種除去設備で約 324,000m³、増設多核種除去設備で約 321,000m³、高性能多核種除去設備で約 103,000m³ を処理（1/19 時点、放射性物質濃度が高い既設 B 系出口水が貯蔵された J1 (D) タンク貯蔵分約 9,500m³ を含む）。
- Sr 処理水のリスクを低減するため、多核種除去設備（既設・増設・高性能）にて処理を実施中（既設：2015/12/4～、増設：2015/5/27～、高性能：2015/4/15～）。これまでに約 297,000m³ を処理（1/19 時点）。

➤ タンク内にある汚染水のリスク低減に向けて

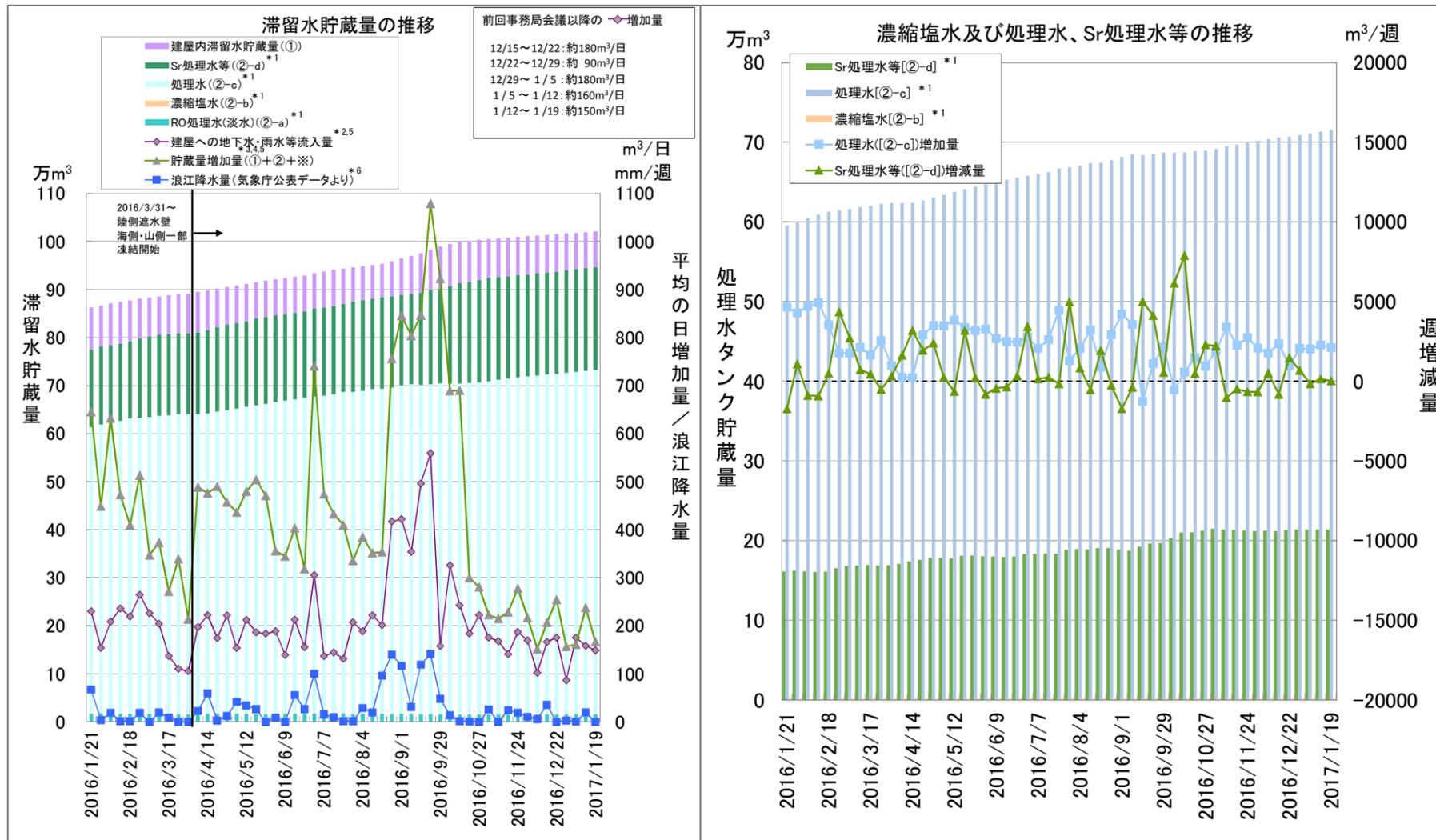
- セシウム吸着装置（KURION）でのストロンチウム除去（2015/1/6～）、第二セシウム吸着装置（SARRY）でのストロンチウム除去（2014/12/26～）を実施中。1/19 時点で約 340,000m³ を処理。

➤ タンクエリアにおける対策

- 汚染水タンクエリアに降雨し堰内に溜まった雨水のうち、基準を満たさない雨水について、2014/5/21 より雨水処理装置を用い放射性物質を除去し敷地内に散水（2017/1/23 時点で累計 74,198m³）。

➤ 水処理設備等からの漏えい

- 12/29、H8 タンクエリア付近において、RO 濃縮水移送ポンプ出口配管にあるドレン弁先端にある閉止栓から滴下があることを確認。滴下が確認された当該閉止栓を一旦取り外し、シールテープを巻き直してから再度取り付け滴下が停止したことを確認。
- 12/29、H8 タンクエリア付近にある RO 濃縮水移送ポンプ室内において配管下部に水溜りがあることを発見。運転圧力による漏えい確認を実施したところ、ポンプ出口側圧力計の取り出し配管にある弁のフランジ部から、にじみがあることを確認。当該フランジ部については、ガスケット交換等の修理を実施する。
- 1/11、J1 タンク東エリア北側にある雨水淡水化処理受入タンクのサンプリング弁の閉止キャップ付近からにじみがあることを発見。当該閉止キャップのシールテープ処理を行い、再度閉止キャップを取り付けたところ、滴下の停止を確認。
- 1/11、既設多核種除去設備 A 系において、吸着塔出口弁のグランド部より滴下があることを発見。当該弁のグランド部の増し締めを実施し、滴下は停止。念のため、当該弁の養生を実施。
- いずれも漏えい水は堰内に留まっており、外部への流出は無い。



2017/1/19 現在

- *1：水位計 0%以上の水量
- *2：2015/9/10 より集計方法を変更（建屋・タンク貯蔵量の増加量からの評価 → 建屋貯蔵量の増減量からの評価）
「建屋への地下水・雨水等流入量」 = 「建屋保有水増減量」 + 「建屋からタンクへの移送量」 - 「建屋への移送量（原子炉注水量、ウェルポイント等からの移送量）」
- *3：2015/4/23 より集計方法を変更（貯蔵量増加量 (①+②) → (①+②+※)）
- *4：2016/2/4、2017/1/19 濃縮塩水の残水量再評価により水量見直しを行ったため補正
- *5：「建屋への地下水・雨水等流入量」、「貯蔵量増加量」の評価に用いている「建屋保有水増減量」は建屋水位計から算出しており、下記評価期間において建屋水位計の校正を実施したため、当該期間の「建屋への地下水・雨水等流入量」、「貯蔵量増加量」は想定される値より少なく評価されている。
(2016/3/10～3/17: プロセス主建屋、2016/3/17～3/24: 高温焼却炉建屋、2016/9/22～9/29: 3号機タービン建屋)
- *6：降水量は浪江地点（気象庁）を用いているが、欠測があったことから、富岡地点（気象庁）を代用（2016/4/14～4/21）

図3：滞留水の貯蔵状況

2. 使用済燃料プールからの燃料取り出し

～耐震・安全性に万全を期しながらプール燃料取り出しに向けた作業を着実に推進。4号機プール燃料取り出しは2013/11/18に開始、2014/12/22に完了～

➤ 1号機使用済燃料取り出しに向けた主要工事

- 1号機原子炉建屋オペレーティングフロアのガレキ撤去方法を検討するためのデータ収集等を目的に、崩落屋根下のガレキ状況調査等を実施中(2016/9/13～)。モニタリングポスト・ダストモニタにおいて、作業に伴う有意な変動等は確認されていない。建屋カバー解体工事にあたりは、飛散抑制対策を着実に実施するとともに、安全第一に作業を進めていく。
- 1号機建屋カバー解体工事に使用しているクレーンの年次点検を実施中(11/23～)。
- 2017年3月より建屋カバーの柱・梁改造を実施、その際、梁に防風シートを取り付け、2017年度上期に柱・梁(防風シート付)を復旧する予定。

➤ 2号機使用済燃料取り出しに向けた主要工事

- 2号機原子炉建屋からのプール燃料の取り出しに向け、2016/9/28より、原子炉建屋西側にオペレーティングフロアへアクセスする構台の設置工事を実施中。1/17時点で約77%完了。(2017年4月下旬完了予定)

➤ 3号機使用済燃料取り出しに向けた主要工事

- 2017/1/5より燃料取り出し用カバー等設置の準備工事に着手。
- 1/17よりストッパ※の設置に着手。

※燃料取り出し用カバーを原子炉建屋に水平支持させる突起部材。

3. 燃料デブリ取り出し

～格納容器へのアクセス向上のための除染・遮へいに加え、格納容器漏えい箇所の調査・補修など燃料デブリ取り出し準備に必要な技術開発・データ取得を推進～

➤ 2号機原子炉格納容器内部調査に向けた状況

- 原子炉格納容器内の燃料デブリ及びペDESTAL内構造物の状況把握のため、2号機原子炉格納容器内部調査を実施する予定。
- 2016/12/23, 24にロボットを通す格納容器貫通部の穴あけ作業を実施。2017/1/26にガイドパイプを用いて、自走式調査装置の走行に影響を与える可能性のある堆積物の有無の確認を実施。今後、ペDESTAL内プラットフォームの損傷状況について確認を行い、2月に自走式調査装置を用いて、ペDESTAL内プラットフォーム上及び制御棒駆動機構ハウジングへのデブリ落下状況、及びペDESTAL内構造物の状況を確認する。

4. 固体廃棄物の保管管理、処理・処分、原子炉施設の廃止措置に向けた計画

～廃棄物発生量低減・保管適正化の推進、適切かつ安全な保管と処理・処分に向けた研究開発～

➤ ガレキ・伐採木の管理状況

- 2016年12月末時点でのコンクリート、金属ガレキの保管総量は約198,600m³(11月末との比較:+2,700m³) (エリア占有率:71%)。伐採木の保管総量は約82,900m³(11月末との比較:-6,000m³) (エリア占有率:78%)。保護衣の保管総量は約67,000m³(11月末との比較:-2,100m³) (エリア占有率:94%)。ガレキの増減は、主にフェーシング工事などによる増加。伐採木の増減は、主に敷地造成関連工事に伴うエリア整理などによる減少。使用済保護衣の増減は、焼却処理による減少。

➤ 水処理二次廃棄物の管理状況

- 2017/1/19時点での廃スラッジの保管状況は597m³(占有率:85%)。濃縮廃液の保管状況は9,240m³(占有率:86%)。使用済ベッセル・多核種除去設備の保管容器(HIC)等の保管総量は3,478体(占有率:56%)。

5. 原子炉の冷却

～注水冷却を継続することにより低温での安定状態を維持するとともに状態監視を補完する取組を継続～

➤ 1～3号機原子炉注水量の低減

- 1号機の原子炉注水量について、12/14より4.5m³/hから4.0m³/hに低減。2017/1/5に4.0m³/hから3.5m³/hに、1/24に3.5m³/hから3.0m³/hに低減。注水低減による冷却状態の異常は確認されていない。
- 2号機の原子炉注水量については2017年3月に、3号機の原子炉注水量については2017年2月に、4.5m³/hから3.0m³/hに0.5m³/h刻みに低減する予定。

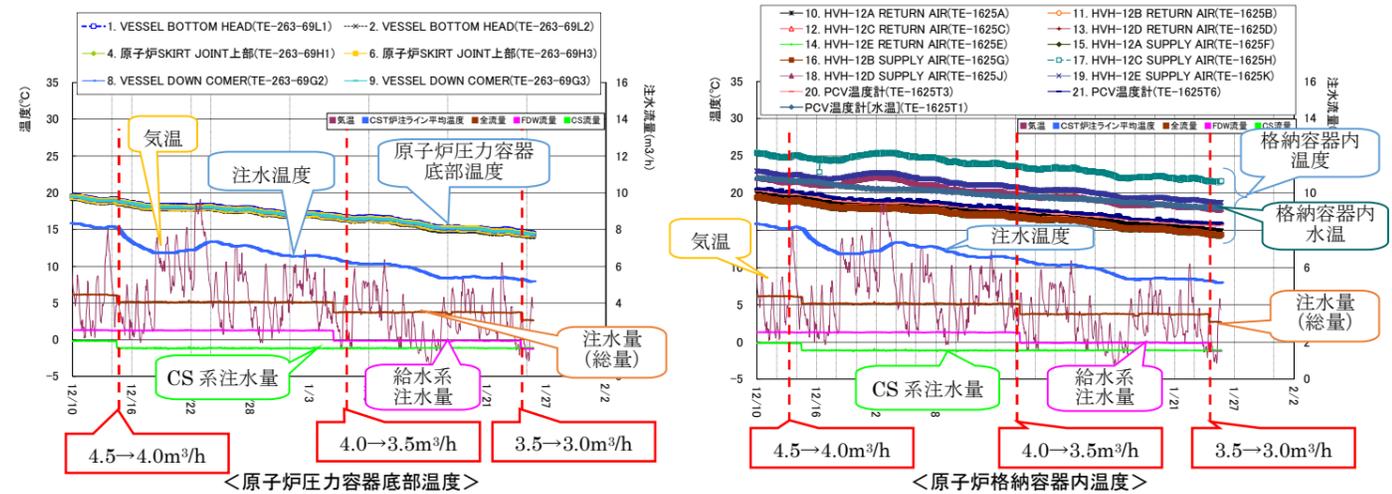


図4：1号機原子炉注水量低減以降の温度推移

➤ 冷却設備等からの漏えい

- 1/9、4号機タービン建屋内の淡水化装置(建屋内R0設備)(A)において、ろ過処理水受けタンク入口弁のグランド部より水の滴下があることを発見。当該グランド部からの滴下については、増し締めにより滴下が停止したが、念のため滴下箇所をビニール養生。
- 1/12、4号機使用済燃料プール代替冷却系と塩分除去装置をつないでいた配管にあるドレン弁の閉止栓からにじみがあり、その下部に水溜りがあることを確認。当該閉止栓をビニール養生。
- いずれも漏えい水は堰内に留まっており、外部への流出は無い。

6. 放射線量低減・汚染拡大防止

～敷地外への放射線影響を可能な限り低くするため、敷地境界における実効線量低減や港湾内の水の浄化～

➤ 1～4号機タービン建屋東側における地下水・海水の状況

- 1号機取水口北側護岸付近において、地下水観測孔No.0-1のトリチウム濃度は2016年10月より緩やかな上昇傾向にあり、現在10,000Bq/L程度。地下水観測孔No.0-3-2のトリチウム濃度は2016年1月より緩やかな上昇が見られていたが、2016年10月中旬より横ばい傾向にあり、40,000Bq/L程度で推移。
- 1、2号機取水口間護岸付近において、地下水観測孔No.1-6の全β濃度は2016年7月より低下が見られていたが、2016年10月中旬より横ばい傾向にあり、25万Bq/L程度で推移。地下水観測孔No.1-16の全β濃度は2016年8月以降6,000Bq/Lまで低下した後に上昇していたが、2016年10月中旬より低下傾向にあり、現在60,000Bq/L程度。地下水観測孔No.1-17のトリチウム濃度は2016年3月以降40,000Bq/Lから低下、上昇を繰り返していたが、2016年11月中旬から低下傾向にあり、現在800Bq/L程度。2013/8/15より地下水汲み上げを継続(1、2号機取水口間ウェルポイント:2013/8/15～2015/10/13, 10/24～、改修ウェル:2015/10/14～23)。
- 2、3号機取水口間護岸付近において、地下水観測孔No.2-3のトリチウム濃度は4,000Bq/L程度で推移し2016年11月より低下していたが、現在横ばい傾向にあり500Bq/L程度で推移。地下水観測孔No.2-5の全β濃度は2015年11月以降50万Bq/Lまで上昇した後、2016年1月以

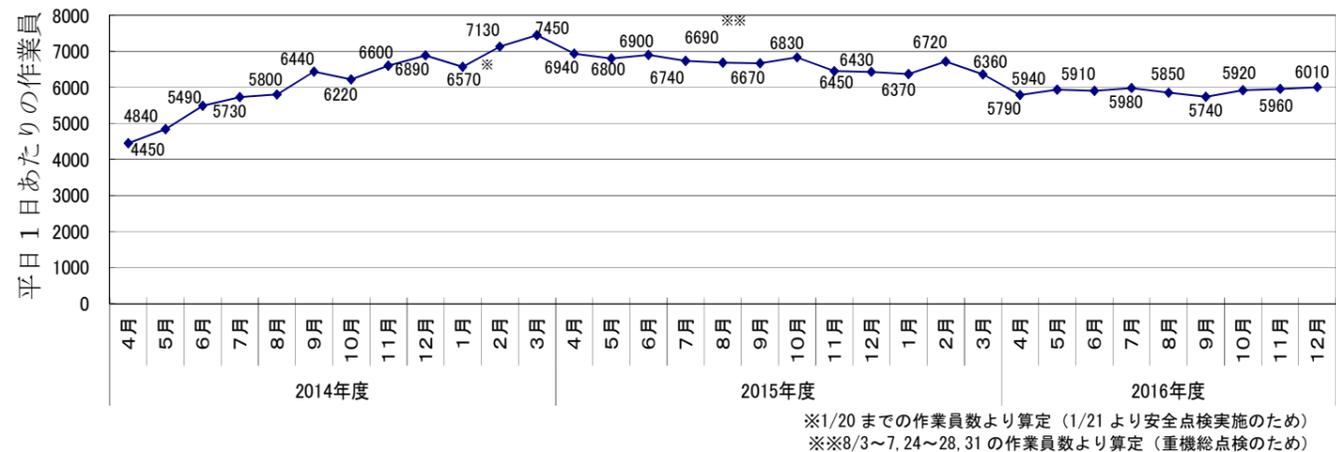


図7：2014年度以降各月の平日1日あたりの平均作業員数（実績値）の推移

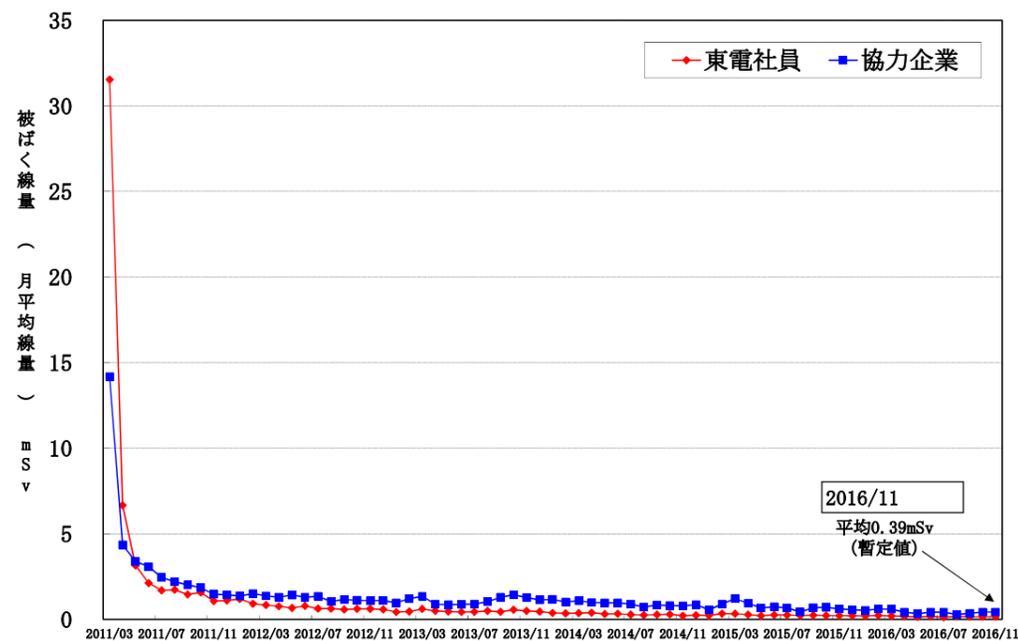


図8：作業員の月別個人被ばく線量の推移（月平均線量）
（2011/3以降の月別被ばく線量）

～9月）の健康診断に対する管理状況の報告を受け、各社とも新たな仕組みのもとで、指導、管理が適切に実施される状況にあることを確認した。今後も継続確認していく。

➤ インフルエンザ・ノロウイルス感染予防・拡大防止対策

- ・ 11月よりインフルエンザ・ノロウイルス対策を実施。対策の一環として、協力企業作業員の方を対象に福島第一（10/26～12/2）及び近隣医療機関（11/1～2017/1/31）にて、インフルエンザ予防接種を無料（東京電力HDが費用負担）で実施中。1/24時点で合計8,161人が接種を受けている。その他、日々の感染予防・拡大防止策（検温・健康チェック、感染状況の把握）、感染疑い者発生後の対応（速やかな退所と入構管理、職場でのマスク着用徹底等）等、周知徹底し、対策を進めている。

➤ インフルエンザ・ノロウイルスの発生状況

- ・ 発症日が2017年第3週（2017/1/16～1/22）までのインフルエンザ感染者194人、ノロウイルス感染者14人。なお、昨シーズン同時期の累計は、インフルエンザ感染者14人、ノロウイルス感染者7人。

➤ 福島第一における作業員の健康管理について

- ・ 厚生労働省のガイドライン（2015年8月発出）における健康管理対策として、健康診断結果で精密検査や治療が必要な作業員の医療機関受診及びその後の状況を元請事業者と東京電力が確認する仕組みを構築し運用を2016年7月より開始した。今回、各元請事業者より第2四半期（7